

日本災害医学会 学会主導研究

研究実施状況報告書

- ・研究代表者氏名：今井 一徳
- ・所属機関・職名・職種：名古屋市立大学医学研究科救命救急医療学 講師(医師)
- ・研究課題名：災害時のエッセンシャルワーカーに対する育児支援の現状と必要な支援策に関する調査

- ・採択年度：令和5年度
- ・研究期間：(3)年計画の(1)年目
- ・来年度研究助成申請を： 行う
- ・来年度研究助成申請を行う場合には、以下に支出予定を記載してください。
(今年度未使用分があった場合には、表には含まず、表の下の項目にて記載してください。)

	令和5年	令和6年
施設備品費(※)	0円	0円
消耗品費	0円	0円
旅費	0円	0円
人件費	0円	0円
その他	0円	141,797円
合計	0円	141,797円

※10万円以上かつ耐用年数1年以上のもの

※今年度未使用分子算があった場合には、以下に予定を記入してください。

- ・ 英語論文 英文校正 60,000円

- 学会旅費 40,000 円

(2024 年 7 月 日本周産期・新生児医学会及び災害時小児周産期リエゾン協
議会 大阪国際会議場)

- その他 8,203 円

(調査交通費 等: 2024 年 7 月 豊橋市市役所での取り組み聞き取り予定)

- 合計： 108,203 円

- ・ 研究実施状況の概要(800 字以内で記載してください)

当初、エッセンシャルワーカーの災害時の育児支援策の調査を計画して
いたが、研究費採択時の feedback から、まずは、災害時の出勤を阻害する因子・
促進する因子を明らかにする必要があると判断した。このため、研究期間の前
半は調査対象・研究手法の練り直しを行ったため、調査・研究そのものの開始が
遅れたことを第 29 回日本災害医学会総会・学術集会において報告した。

本報告をきっかけに、岐阜市民病院災害医療部と連携することができた。これに
より分担研究者 2 名に加え、研究協力者に参加頂くことができ、より層の厚い研
究チームを構築することができた。岐阜市民病院で行われていた職員調査の結

果の分析に参加し、災害時の職員出勤には、就労体制や、家族の預け先などの不安が大きく影響することが明らかになった。本結果は、現在英語論文の投稿準備中である。さらに、本論文を元に、エッセンシャルワーカーの出勤可否について、より検出能の高いアンケートを作成中である。本年度後半（研究期間2年目）には、本アンケートを用いて、名古屋市立大学病院群で実施できるよう準備を進めている。

本調査を進める中で、愛知県豊橋市が、災害時に災害対応に当たる職員に対して、一時託児所を設置するという情報を得た。2024年7月以降に豊橋市へ訪問し、設置の経緯、設置に至った根拠、課題等を調査する予定である。本調査の結果は、前述のアンケートに反映させる予定である。

- ・現在までの進捗状況(下記ドロップダウンリストより選択してください)

進捗状況 やや遅れている

- ・現在までの進捗状況で「やや遅れている」「遅れている」を選択した場合にはその理由を200字以内で記載してください

理由：実施状況で述べたとおり、当初、エッセンシャルワーカーの災害時の育児支援策の調査を計画していたが、研究費採択時の feedback から、まずは、災害

時の出勤を阻害する因子・促進する因子を明らかにする必要があると判断した。このため、研究期間の前半は調査対象・研究手法の練り直しを行ったため、調査・研究そのものの開始が遅れた。

・今後の研究の推進方策(400字以内で記載してください)

1. 精度の高い職員出勤可否を予想するアンケートの作成し、名古屋市立大学附属病院群（災害拠点病院 3施設）を対象にアンケートを実施、解析する。（解析結果は英語論文投稿予定）
2. 職員出勤促進・阻害する因子を検証し、それに対する実効的な対策を立案する。
3. 豊橋市など災害時の託児所を設置予定の自治体、施設などを調査し、課題を抽出する
4. 2 及び 3 の項目を踏まえ、より精度の高い災害時の職員参集可否を予想するスコアを作成する。
5. 被災地の協力が得られれば、熊本地震、能登地震などの被災地域でスコアと実際に参集したかどうかの調査を行い、スコアの制度を検証する

・研究発表(今まで全ての本研究に関する業績を論文と学会発表に分けて記載してください)

○学会発表

今井一徳 他 「災害時のエッセンシャルワーカーに対する育児支援の現状と必要な支援策に関する調査」(第29回日本災害医学会総会・学術集会)

○論文(投稿準備中)

Akiyama N., Imai K., Ito T., Takahashi A. et al. How do hospitals assemble staff in the event of a large-scale disaster? The survey on a key disaster hospital in Japan.

・日本災害医学会学術集会での研究発表の有無

発表状況(あり)

今井一徳 他 「災害時のエッセンシャルワーカーに対する育児支援の現状と必要な支援策に関する調査」(第29回日本災害医学会総会・学術集会)

・「未定」を選択された場合、翌年度の学術集会で発表希望はありますか？
※ご意向に沿えない場合もございます。

発表状況(あり)